

奥羽地方 花の名山めぐり

姫神山・早池峰山・秋田駒ヶ岳

実施日 2014年7月21日(祝・月)~23日(水)

天候 21-22日晴れ/23日霧・小雨

リーダー 涌井 良明

参加者 涌井良明、山崎富美恵、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、宇野輝代、徳山敬子 計8名

費用 JR約20,560円(東京起算ジパング)レンタカー6,400円/宿泊費15,000円

タイム 7/21 盛岡駅(8:44~9:00レンタカー)一本杉登山口P(10:00~20)五合目(10:50~11:05)姫神山(12:10~50昼食)コワ坂口(13:50)一本杉登山口P(14:15~30レンタカー)峰南荘(16:30)
 7/22 峰南荘(5:15レンタカー)河原坊P(5:25~6:05朝食)頭垢離(7:10~15)休憩(8:10~15)休憩1810m付近(9:05~15)早池峰山(9:35~10:25昼食)小田越(12:22~30)河原坊P(13:00~10レンタカー)田沢湖高原ハイランド山荘(16:30)
 7/23 ハイランド山荘(7:30レンタカー)アルパこまくさ(7:35~42シャトルバス)秋田駒ヶ岳8合目(8:07~25)休憩・衣服(8:43~50)片倉岳(9:02)男女岳分岐(10:40)避難小屋(10:45~11:00)横岳(10:35~40)8合目(11:15~50シャトルバス)アルパこまくさ(12:15~12:45レンタカー)雫石あねっこ・いで湯の里(13:15~15:00)盛岡駅(16:30~17:54)

7/21 今年の夏の東北山行として3日で三山をはしごするプランである。

1日目は石川啄木の故郷渋民の姫神山に登る。盛岡からレンタカーで登山口の本杉キャンプ場Pへ、海の日で結構な車が止まっている。以外とムシ暑さを感じず爽やかである。草



原の入口から歩き易い森の道に入る。急ではないが、このところの雨のためかしっかりと濡れている。山頂へ1.8キロとあり、その後も所々残りの距離が示されていた。8合目残り720m辺りから先行する大パーティにつくが、あまりに…で途中



中でそれとなく追い抜いて登る、やがて傾斜もきつくなり、岩も目立つようになる。登り切った傾斜が緩くなっ

て山頂が近くなったと分かり、展望の開けた頂に着く、独立峰で周りに高い山もないので下界の眺めがすこぶる良い。

晴天の1日家族連れを始め大勢のハイカーが三々五々お店を広げている、勿論我々もランチになる。



姫神山、形も美しく手軽に登れる好ましい山である、岩手山に疎まれたという夫婦伝説もあるが可愛らしく愛らしい山ではないだろうか。写真も撮ってコワ坂口へ下山路をとる、直下は急だがやがて歩き易い道となり、フィトンチッドを浴びて下って行く。登路より歩き易い道の様だ、コワ坂口の林道に降り立ち、後は一本杉Pまでのんびりと林道に戻った。

今日は小粒ながらも楽しめる山だった。東北の山エーネー！ クルマは早池峰山麓の岳に向けて進める、ほぼ想定時間で岳の峰南荘にチェックイン。昨日は満員だったそうだが今日は我々含め4パーティのみでそれは広々した部屋で沢音を子守唄？に就寝。

7/22 4:30起床、朝食のおにぎりを持って5時過ぎに河原坊Pにクルマで移動開始。



割と整備されたPに10台のほどが止まっている。朝霧が流れているので車中で朝食とし

た。6時過ぎに河原坊の立派な登山口をスタート、直ぐにいきなりの徒渉をしてコメガモリ沢コースに沿ってまずは緩く登って行く。

4回の徒渉を繰り返し返し、前方に立ち上がる壁が見えてくると岩の多い道となる。



沢から離れて稜線の壁を見上げるようになって頭垢離となる。この先がこの山のお楽しみの急登だが辛さも多少は花々が癒してくれる筈だ。ミヤマオダマキが目につく位だったが、ありました！岩道に沿ってハヤチネウスユキソウです、登り



道ではあまり群れておらずに単独で美しさを主張しているものが多い様だった。傾斜のきつい岩の登りだが左右に花を探しながらなのでやはり疲労も少しは和らぐ気もする。

巨大な岩に付けられた名前の標柱に示された距離の減るの励みに体を上へと運ぶ。稜線に向かってガスが切れ目なく吹き上がってくるので、涼しさもあって心地良いが山頂の天気も気にかかる。

空が次第に広くなり、急登が終わると頂上に飛び出る、オーッ！何と正面は青い空と眺望が広がっている、うれしい晴天の早池峰山に着いた。前回の白のカーテンに覆われた山頂イメージはまさに雲散霧消である。思い思いに広い山頂に点在



する岩に立って周囲の眺めを存分に楽しむ、雲を抜いての岩手山の雄姿、北上山地の山並を

見下ろすことが出来る。

早めの昼食と写真を撮って意気揚々と小田越ルートへの下山路へ向かう。避難小屋前から下って行くが迎える道が緑の中

に帯となって眺められそれは良き眺めである。この山の一番美しい山上庭園となっている、既に登頂後の気分の良さも相まって気分爽快とはこんな気分でしょう。敷かれた木道の周囲に咲き乱れる花々に数歩ごとに足を止められるのも気にならない、散歩気分で花を愛でて、写真を撮って進む。木道が終わり右に向かうと大岩にかかるコース名物のハシゴになる。上段2



列下段1列の垂直に近い長いハシゴを下って、岩の多いガレに近い様な道を下る。岩は蛇紋岩のため非常に滑



り易いので斜めには乗らないようにして歩く。対面する薬師岳に流れるガスが一瞬切れてまるい山容が見え隠れしている。この小田越ルートはコメガモリコースよりハヤチネウスユキソウの姿が多く、群落を作っている所もあり、写真目的のハイカーも見受けられる。それなりに整備された道だが、蛇紋

岩を踏んでの下りなのであまり急ぐことも出来ずにポツポツと下って行く。周囲を眺めながらの下りも1合目の標柱を見ると、樹林帯に入り、所々にぶら下がる熊除けと見られる空き缶をガンガン叩きつつ下り、木道が現われると下山も終了点の小田越口に出た。平日はバスはないので河原坊Pまで林道のだらだら下りを戻った。先程まで歩いた早池峰山が頭上から被さる様に見下ろしていた。今回も楽しませてもらってありがとね。



河原坊Pから今日の泊地の田沢湖高原まで100キロ余移動になったが、予想通りのドライブでシャトルバス発着地近接の

田沢湖高原温泉にチェックイン、温泉とゴージャスな夕食で明日に備えてから就寝。明日の天気予報が芳しくないのが気にかかる。

7/23 6時前に起き出すが、窓からは今にも泣き出しそうにどんよりとしている。出発準備をして、7時にバイキングの朝食、7時30分に宿を出た。数分の移動でシャトルバスが発着するアルパこまくさに、42分発のバスに間に合う。

高度1000mを超えた辺りからガスの世界になり、8合目BTでは殆ど視界の無い真っ白けである、水滴は落ちてはいないが木々を揺らす風もやや強いようだ。

売店内で雨具を着て、予定通りは難しいとは思われるが取敢えず出発する。入山口で入りの分岐を取り違えて予定と逆回りとなったが、そのまま行くこと



にする。良く整備された道を緩く登る、静かなだが周囲は白カーテンで閉ざされているのがザンネンだ。前方が開けたピークが片倉岳だが風は思い切り強く、立ち止まれる状態ではないので通過。

尾根筋の風の状態から男女岳の道が心配だ。所々お花畑となっており、ニッコウキスゲ、ツリガネニンジン、エゾシオガマなどに癒されつつ、強弱の風にあおられながら進む。駒ヶ岳を過ぎ男岳分岐だが、この天気で山頂はパスして阿弥陀池に沿ってかかる木道を進むが、木道から落とされそうな風が吹き降ろしてくる。



視界は足元が確認できる程度の数分だろう。最高峰の男女岳への分岐に着くが、山頂へは風とまともに渡り合って登るようになり、あおられて転倒の危険も感じるので断念した。また予定後半のムーミン谷を歩くルートも諦めて8合目に戻る

ことにする。分岐からは全く確認出来なかった、数十分の距離に建つ避難小屋で休憩と軽食をとり、横岳に向かう。

短い登りで男岳からの尾根に出て、200分で横岳に着く、今日唯一のらしい山頂なので、写真『ガスの頂で』を撮ってから焼森へ、少し下ってから開けたザレの焼森に出る、相変わらず何も見えず立ち入り制限の囲いの切れ目が進行方向と分かる程度だ。杭の向う側もザレ地だがかるうじてポツポツと小さなピンク見える。



コマクサだ、好天なら一様に足を留める所だがガスと強風ではのんびりは出来ないが、山でのコマクサとの対面はやはり嬉しいことでもある。ロープ柵に沿って下ってから僅かに登って尾根を越しまた下り道に行く。少し雨粒が落ちてくるが8合目に向かって進み、先程の8合目の入山口に戻って来た。ムーミン谷には行けなかったが、また来いと言われていたようなので、ぜひ好天時に再訪したい。来年また来ちゃおっかな。バスを待つ間に昼食と体制を整えて、山ヤの行動は完了した。

帰路に日帰り温泉雫石あねっこでスッキリ、盛岡では黒ビールで乾杯、といつも通り？の締めて帰京となった。

秋田駒ヶ岳はザンネンだったが、後の二山は予定通りで、ハヤチネウスユキソウともしっかり対面してまあまあだったのでないでしょうか？

これからもぜひ東北の山に足を向けてもらえると嬉しいですね。

アルプスも良いけど、花の多さ、たおやかな山容と山麓のいで湯と、魅力の山域です。また皆さんと一緒に歩けると良いですね。もう沢山と言わないでね。

(記&写真・涌井 良明)